

(2) 施策の方針

第2章 歴史を継承し、文化を創造するまち

分野(1) 歴史環境

施策の方針③ 文化財の保存、調査・研究、情報の充実

<目標とすべきまちの姿>

文化財保護体制の強化により、文化財指定件数が増え、文化財の適切な保存が図られています。発掘調査体制が強化され、市内遺跡の発掘調査及び報告書刊行が円滑に行われています。文化財資料がデータベース化され、出土品、歴史資料等の整理、保管がなされています。保管する文化財は展示施設等で一般に公開されるとともに、文化財の調査・研究の成果は、学校教育・生涯学習事業と連携し、市民への情報として発信されています。郷土芸能大会などによる情報発信により、伝統芸能の保護・技術の伝承が図られています。

1 事業評価結果一覧表

歴史まちづくり推進担当

評価対象事業名		決算値 (千円)	総事業費 (千円)	26年度 職員数 (人)	今後の方向性	
整理番号	事業名				事業内容	予算規模
歴史-03	(仮称)鎌倉歴史文化交流センター設置事業	33,073	55,588	3.0	b	B

文化財部

評価対象事業名		決算値 (千円)	総事業費 (千円)	26年度 職員数 (人)	今後の方向性	
整理番号	事業名				事業内容	予算規模
文財-04	文化財調査・整備事業	78,467	105,257	3.5	a	A
文財-05	文化財保存・修理助成事業	26,073	37,554	1.5	b	A
文財-06	公開宣伝事業	618	8,272	1.0	a	A
文財-07	国宝館管理運営事業	51,813	81,753	4.0	b	B

2 平成26年度末の目標

歴史まちづくり推進担当

扇ガ谷一丁目用地にある既存建物を改修し、(仮称)鎌倉歴史文化交流センターを整備するため、設計業務や工事等を行う。

文化財部

文化財の状況を的確に把握し、緊急性、重要性に応じ適切な助成を行い、発掘調査実施の待機時間の短縮や出土資料の整理を行いながら、文化財や郷土芸能などの周知・啓発を図る。

3 平成26年度の取組の評価

歴史まちづくり推進担当

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	■ 適切	□ 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	■ 適切	□ 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	■ 適切	□ 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	■ 適切	□ 要改善

・(仮称)鎌倉歴史文化交流センター整備において、建築基準法第48条但し書きによる許可(建物の用途変更許可)を得た。
 ・(仮称)鎌倉歴史文化交流センターの展示設計、改修工事設計を行った。
 ・庭園整備や施設管理業務等、公有財産の維持管理を行った。

文化財部

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	<input type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	<input type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 要改善

遺跡調査研究発表会や文化財めぐり、国宝館収蔵資料を活用した公開講座を実施するなど、文化財の周知・啓発活動を行った。また、出土品の学校貸し出しや国宝館の学校行事による利用など、学校教育と連携を図った。

4 今後の方向性

歴史まちづくり推進担当

(仮称)鎌倉歴史文化交流センターについては、早期の開設を目指し、整備を進める。
開設後は、市内外の来訪者に長く親しまれる施設を目指し、適切な維持管理及び運営を行っていく。

文化財部

出土品の早急な整理のための調査・研究体制の強化を行うとともに、展示機会を増やしていく。また、文化財の学校展示を増やし鎌倉の歴史や文化に関する情報や学習機会の充実を図るため、学校教育との連携を一層深めていく。さらに、国宝館では展示や講座の実施、学校教育との連携など博物館活動の充実にも努めるとともに、博物館としての基本的な運営方針等を策定し、これに基づいた博物館活動の実施に努めていく。

5 平成27年度末の目標

歴史まちづくり推進担当

(仮称)鎌倉歴史文化交流センターの早期の開設を目指し、建物改修工事、展示製作業務等を引き続き実施する。
敷地及び建物の維持管理、運営、文化施設としての活動等、開館後に必要な業務の準備を進める。

文化財部

発掘調査の体制強化を図り、発掘調査待機期間の短縮及び出土資料整理の促進を図る。また、文化財に対する周知・啓発を図るため、高校を含めた教育現場の学習機会を充実していく。
国宝館は、収蔵品の充実を図り、魅力ある展示の企画・実施による入館者の増加を図るとともに、学校教育の場としての利用の促進を図るなど、普及啓発事業にも力を入れる。また昇降機更新や免震設備対策の検討を継続する。

鎌倉市民評価委員会の評価

1 評価できるところ

- ・行政が文化財の所有者に対し保存管理に必要な費用を補助するなど、文化財保存のサポートをすることは必要なことである。
- ・「文化財を紹介し郷土への理解を深め、文化財愛護の精神の高揚を図る」という事業意図、そして実際に人の目に触れる場所を活用して周知を図っているという姿勢は評価できる。
- ・発掘調査に伴い出土した遺物の整理を行い、管理・保管を行った点。
- ・文化財等の展示の場として(仮称)鎌倉歴史文化交流センターの整備が進められている。

2 課題・提言

- ・文化財についての情報の発信についてがまだまだ局所的であり、改善の余地が多いと感じる。
- ・貴重な文化財の展示施設は、ただの博物館・美術館というだけでなく、学校教育の場としても活かしていけるよう、今後も様々なアプローチで施設を活用してほしい。
- ・文化財保存に関しては、その指定数も年々増えており、限られた予算から考えると優先順位をつけて保護を進めなければならない状況であると思う。文化財の状況を適切に把握し、修繕の緊急性、重要性に応じた保存活動は必要である。
- ・埋蔵文化財出土資料の増加による保管場所の確保と出土資料の整理を適切に行うべきである。
- ・発掘調査実施の待機期間、調査終了から報告書刊行までの期間が長期化している。調査・研究体制を強化すべきである。
- ・文化財に関する情報周知、宣伝が十分とは言えない。効果的な周知方法を引き続き検討する必要がある。
- ・(仮称)鎌倉歴史文化交流センターが市民の学習の場として位置づけられているが、観光的要素も看過できないため、観光、都市計画部局との連携を図る必要がある。
- ・歴史環境、歴史的風土の保全に関する市民の意識は重要とされているが、個別の文化財保存等については費用のかけ過ぎとする割合が比較的高い。重要度、緊急度等から優先順位をつけ、財源を考慮しながら整備を進められたい。